

# 岐阜

## 「日本酒ブーム」日韓交流

### 飛驒・渡辺酒造店に飲食関係者ら

飛驒市古川町の渡辺酒造店で20日、来日した韓国の飲食店関係者らが日本酒の製造過程を学び、杜氏らと交流した。韓国では日本ブームで日本酒の需要が伸びているという。両国の外交関係が冷え込む中、両者は「酒を通じて友情を深めたい」と話している。



麴室を見学する韓国の飲食店関係者ら＝飛驒市古川町

酒造店の杜氏らが、来日した日本食レストランや居酒屋の経営者ら約15人を酒蔵に案内した。室温が約30度ある「麴室」で麴についての説明を受け、搾りたての純米大吟醸を試飲した参加者の中には「搾りたての風味はここでしか味わえない」と説明を受けると、おかわりする人もいた。

韓国では日本ブームが続いていて、日本酒は高級な酒として、30〜40代を中心に人気があるという。渡辺酒造店でも2年前に比べ、韓国への輸出量が倍増しているという。渡辺隆専務(44)は参加者らの印象を「日本酒についてとても勉強熱心。交流を通じて、もっと良い酒をつくろうという原動力になる」と話した。

自衛隊の哨戒機に韓国海軍が火器管制レーダーを照射したとされる問題などで、日韓の外交上の対立は深まっている。日本酒の輸入を手がける金在旭さん(48)は「外交では争っているが、民間の交流は別物。日本のおいしいお酒をもっと韓国に広めたい」と話した。

(山下周平)